個人研修奨学金
ポルトガル

三浦 福吉　国際学部　国際学科　3年
東京都私立聖パウロ学園高等学校出身
2023.4　拓殖大学入学
2025.8　個人研修参加

文学部キャンパス

ポルトガルでの経験

【研修先の紹介】

研修先であるコインブラ大学は、人口約15万人の都市・コインブラ市に位置しており、学生など若者が多く、歴史ある教会、大学、街並みがとても綺麗なところでした。8月中旬から9月中旬は湿気が少なく、日差しを避ければとても過ごしやすい気候でした。

ポルトガルでの生活を通して感じた日本との相違点に関しては、まず食生活があげられます。ポルトガルには至る場所にpadariaというパン屋があります。私はそこで毎朝パンとコーヒーを朝食として食べていました。多くの地元の人たちもそこで朝食を食べているようです。昼食と夕食はコインブラ大学の食堂で毎日食べていました。学食でもパンが必ず提供され、主食としてパンを食べていました。またポルトガルは大西洋と地中海に面しているため、魚介料理もよく食べられています。味付けは日本と異なり、オリーブオイルやニンニクをベースにした魚介料理が多いと感じました。

次に服装についてです。コインブラ大学の学生の中には黒いマント（Capa）を羽織り、スーツで大学を歩いている人がいます。コインブラ大学では2年生になるとこの黒いマントとスーツを着ることができるようです。

音楽についても日本との違いを感じました。コインブラの中心街では昼夜問わず、学生やアーティストたちによる路上ライブが日常的に行われています。日本とは異なり、深夜遅くまで路上ライブが行われ、多くの人たちで賑わっています。

【学校生活について】

大学は平日の午前9時から午後4時までありました。午前は文法の授業で午後はコミュニケーションの授業でした。両方とも先生がポルトガル語で授業をしていたため、授業内容を理解するのが大変でした。文法の授業は事前に拓殖大学で学んだ範囲で、内容は基本的なものでした。コミュニケーションの授業は、グループワークを行って発表する形式でした。わからないことがあれば、先生にポルトガル語または英語で質問し、携帯の検索は基本禁止されていました。そのため、とても実践的な授業だったと思います。予習は毎日1時間ほどしていました。

【研修を通して得たこととその成果を今後の学生生活や社会へどのように還元するか、について】

今回の研修を通して、改めて言語を学ぶことの魅力を感じました。今回の研修ではポルトガル語を学ぶため、コインブラ大学に約1か月間留学をしました。私の受講したクラスにはヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米やアメリカなどから学生が来ていたため、世界各国の人達と交流することができました。この経験から第二言語や第三言語の魅力を改めて実感し、母国語以外の言語を話すことはより多くの人とコミュニケーションができて、新しい価値観を知ることができるということも実感しました。

また現地の人と実際にポルトガル語で話してみて、その言語でないと体験できないことがあると感じました。毎朝通っていたパン屋で、ポルトガル語で注文すると、現地に溶け込んだような気がしました。そして、大学で出会ったポルトガル人の友人との会話では、スラングや独特な言い回しを学ぶことができ、ポルトガル語でしか感じられないものを体験できた気がしました。

ポルトガル語でのコミュニケーションで印象的な出来事がありました。首都リスボンの観光中に、アンゴラ出身のレストラン経営者とポルトガル語で会話した際のことです。会話の中で将来の夢を聞かれ、私が「いつかカフェをオープンさせたい」と言うと、彼は「地元で栽培したアンゴラ産のコーヒー豆が必要なら連絡してくれ」と言ってくれました。この方との出会いは印象的で、言語を通して、自分のやりたいことの可能性が広がったことを実感しました。私はポルトガル語を通して多くの人と出会いました。そして言語の習得はたくさんの人と話す機会を得るのに必要なものだと、改めてこの研修を通して感じました。今後はポルトガル語をより深く学び、ポルトガル語を母語とした人達とコミュニケーションを取る機会を増やしていきたいと考えています。

集合写真

pastel de temtugal